

平成25年度 北区自治協議会提案事業

北区まちなか賑わい創出事業

「葛塚中心部まちづくり構想」

提案書

まちづくり構想検討委員会

目 次

はじめに	北区まちづくり構想検討委員会 中出委員長	1
●北区まちなか賑わい創出事業について		2
<参考>北区役所庁舎の整備に関する要請書・現況図		4
区役所整備の基本的な方向に関する報告書から		6
●北区まちなか賑わい創出に向けて		
1	北区まちなか賑わい創出に向けて ～未来の世代に引き継がれていくまちを目指して～	7
2	北区役所庁舎および敷地の現況 現況図、北区役所周辺の交通	10
3	北区役所周辺のまちなかの現況と課題	13
4	北区まちなか賑わい創出の定義	
(1)	「北区役所跡地利活用」による「まちなか賑わい」の定義	15
(2)	北区まちなか賑わい創出のターゲット・キーワード	16
(3)	具体的プラン・イメージ	19
素案1	「目指すは、コンパクトで行政と民間が一体化した 新しい中心市街地の在り方に挑戦する！」	20
素案2	「子育てを合言葉に、世代間交流に重点を置いた 地域の交流力を高めて賑わいを取り戻そう！」	22
素案3	「街なか居住と街なか拠点ビジネスセンターで、 葛塚の中心部にパワーを集めよう！」	24
●北区まちなか賑わい創出のまとめ		26
●資料編	市民プロジェクト活動報告 中間報告①-1、①-2、中間報告②、 シンポジウム報告 まちづくり構想検討委員会 議事録 会議概要 委員名簿	

はじめに

本提案書は、北区自治協議会が作成した北区役所庁舎に関する要請書を受けて、その提案事業として葛塚地区の将来像や跡地利用の可能性を議論し、成果として提案したものである。

本まちづくり構想検討委員会は、地元の皆さんを中心として合計４回に及ぶ熱心な議論を重ねている。また、この議論の際には、市民プロジェクトが別途設置され、地域住民の視点からアイデアを出していただき、そのメンバーの方々の熱心な検討を叩き台とさせていただいている。

この市民プロジェクトの様々な検討を、本委員会としては真摯に受け止め、一つの案に集約するのではなく、それぞれの提案を整理した上で、提案するに至った次第である。

もとより、単に跡地利用の方向性を議論するだけでなく、葛塚地区全体の将来を見据えた問題点・課題の洗い出しから始まり、まちなか賑わいの創出とはという概念的な議論を加えて、最終的に提案に至ったものである。

本提案書には、提案自体にとどまらず、そこに至るまでに議論された内容も丁寧に示されている。その意味では、この提案書の内容を腰を据えて理解していただければ、提案が地域の将来像を見据えた理に適ったものであることがわかっていただけるものと信じる。さらには、この提案を基に具体的な動きがされることを期待するものである。

平成２６年　３月

北区まちづくり構想検討委員会
委員長　中出　文平

●平成25年度 北区自治協議会提案事業
「まちなか賑わい創出事業」について

【背景】

平成の大合併で政令指定都市・新潟市となってから、区役所整備に関する様々な検討が行われてきた。（下記表参照）

特に平成24年7月には北区自治協議会において「北区役所の整備に関する要請書」が新潟市長宛に提出され、その要請書の付帯意見の中に「現北区役所庁舎の跡地及び新館庁舎の利活用」について早めの取り組みを行政当局に要請している。要請書を提出した主体である北区自治協議会としても、自ら平成25年度の北区自治協議会提案事業として取り組み、その活用方法を検討することとなった。

【事業概要】

まちなかの活性化に向け、葛塚中心部について、地域住民・商工関係者・都市計画関係者による「まちづくり構想検討委員会」を設置し、将来の北区発展の拠点となるような「まちなか賑わい創出」の検討を行う。

【計画内容】

移転新築が予定されている北区役所跡地を含めた葛塚中心部において、将来の北区発展の拠点となるような利用方法などを含めたまちづくりの方策を構想段階まで具体化することを目的として活動する。

また上記協議会の下部組織として「市民プロジェクト」を組織し、地域住民の声を広く聴き、構想の具体化を促進する。

＜北区役所整備に関する経緯＞

平成19年11月	新潟市区役所整備検討委員会
平成20年11月	委員会報告書 → 整備優先順位 3位（東、西に継ぐ）
平成21年 6月	北区役所庁舎整備検討委員会（外部委員） → パブリックコメント
平成23年 1月	北区役所整備庁内検討委員会（庁内職員）
10月	中間報告書
平成24年 2月	北区役所庁舎整備検討部会（北区自治協議会）
5月	中間報告書（※別紙参照）
7月	「北区役所の整備に関する要請書」を新潟市長に提出
12月	「北区自治協議会提案事業」として提案 → 平成25年度事業として承認

【組織・検討会構成】

「まちづくり構想委員会」の役割

～市民プロジェクトのアイデアの整理・まとめ役～

まちなかの賑わい創出に関する専門的かつ総括的な検討業務と市民プロジェクトの進行管理業務及び側面的支援業務を行い、「葛塚中心部まちづくり構想」提案書（最終案）の作成・提出をする。

- ①地域住民、商工関係者、都市計画関係者及び学識経験者等からなる「（仮称）まちづくり構想検討委員会」の設置（構成人数は11名以上）
- ②「まちづくり構想検討委員会」の運営（年4回以上の開催）
- ③北区自治協議会への経過報告及び最終報告
- ④「葛塚中心部まちづくり構想」提案書（最終案）の作成

「市民プロジェクト」の役割

～地域住民の視点からアイデアの発信役～

まちづくり構想委員会業務の基礎的資料となる地域住民、周辺自治会等関係団体からの意見聴取および取りまとめ業務を行い、「葛塚中心部まちづくり構想」提案書（素案）の作成をする。

- ①地域住民、学生、学校関係者及び関係諸団体からなる住民主導型のプロジェクトチーム（（仮称）市民プロジェクト）の設置
- ②（仮称）市民プロジェクトの運営
ワークショップの開催 年5回以上
勉強会、研修会、先進地視察等の実施
- ③「葛塚中心部まちづくり構想」（素案）の作成
- ④「葛塚中心部まちづくり構想」（素案）に関する公開シンポジウムの開催及び開催内容に関する取りまとめ

区役所整備の基本的な方向に関する報告書から

平成２０年１０月新潟市役所整備検討委員会より「区役所整備の基本的な方向に関する報告書」が提出されました。

検討項目の一つである「安心・安全」については、「利用者や職員の安心・安全」や「区民の防災拠点としての役割」という観点を考慮した結果、以下のとおり８区のランクづけがされました。（応急的耐震補強の内容は考慮せず）

順位	区 役 所 名
１	北区役所
２	南区役所
３	西蒲区役所
４	西区役所
５	東区役所
６	秋葉区役所
７	中央区役所
８	江南区役所

●北区まちなか賑わい創出に向けて

1 北区まちなか賑わい創出に向けて

～未来の世代に引き継がれていくまちを目指して～

「まちなか」とはまちのなかでどういう顔なのか～葛塚編～

まちなかを国語辞典でひくと、「町の中で家や商店が集まっている賑やかなところ」と記されている。

前出の「北区役所周辺のまちなかの様子」であるように、物流の輸送手段が川船や蒸気船だった頃は、まちなかと言えば船着き場があった新井郷川沿いの他門地区やまだ水路が存在していた大口地区周辺が中心部であった。その後、市場の開設および移設、白新線の開通や輸送手段が自動車に取って代わったことより多くの人々が移り住んでいくなか、中心部は豊栄駅前通周辺や白新町地区へと移っていく。

一方、葛塚地区中心部として一般的に人々が思い起こすものとして毎年9月に開催される葛塚まつり、燈籠の押し合い、豊栄大民謡流しがあげられるであろう。長年の悲願であった葛塚市の開設を記念して、北区役所近くの葛塚稻荷神社と豊栄駅近くの石動神社で祭礼が行われるようになる。

また、人口の流入、増加とともに主に農業や工業・商業混在形成されていた大口地区～正尺地区と商人で形成された他門～上町・中町・下町地区との対立から生じたという燈籠の押し合いが葛塚稻荷神社に近い下町十字路で開催される。一番歴史が浅いとは言え、開催から56年を経過する豊栄大民謡流しは、豊栄駅前から下町十字路付近まで現在のまちなかのメインストリートを踊る。

このように北区役所周辺のまちなかは、葛塚の発展とともに時代の流れによる物的、人的移動を背景に形成され続け、また守られている歴史がある。

「まちなか賑わい創出の必要性」

—なぜ、まちなか賑わいが必要なのか？—

—まちが抱える現状課題—

着実に進む人口の自然減少

全国的に少子高齢化が進む中、ここ葛塚も若い世代の人口減少が着実に進んでいる、第二次ベビーブーム時には、全校児童数が1,000人を超えていた大規模小学校も今では全校児童数約600人となっている。新潟市としても小中学校の

統合・廃校が必要であるという認識になっている。

まちなかの商店街も同じく、大型店が郊外へと進出することに伴い、まちなかから郊外大型店への消費人口の流出、まちなかからニュータウンへの定住人口の流出、また商店街経営者の高齢化と後継者不足は深刻な問題であり、先のことすらも考えられないという声もある。移転や廃業により、空き店舗や空き地も見られマンションなどの住宅系が多く建設されるなど葛塚のまちなかの風景も少しずつ変わってきているのが現状である。

—人口が減少したことにより見えてきたもの—

○移動の問題

日本が豊かになり、ここ北区においても一家に2～3台自動車所有と言っても過言ではない状況になった。自由に移動ができることや、経済発展により郊外への大型店の出店が増加した。豊栄も県外からの大型スーパー店が出店するまでになっている。

しかし、少子高齢化が進み長寿大国になったことにより、交通弱者の問題が増加し始める。買い物難民という言葉もあるように、北区においても、高齢者世帯が増加したことにより買い物や通院、交流活動など移動に苦慮する高齢者が見られ始めている。また、地形的にも車に依存する生活スタイルが主流なため、高齢者ドライバーによる交通事故も増加している傾向にある。

子どもから高齢者まで公共交通を利用したり、自ら歩き、安全で、用事が足せて、元気になって帰れるまちなかづくりが必要である。

○郊外進出のまちづくりの限界 ～ コンパクトシティ ～

前述のとおり、郊外進出のまちづくりは人々の移動の問題がでてきた。更に、人口が減る中で郊外型まちづくりの拡大、分散化にも限界があることは予想される。また、資金的な面でも限界がある。

現在のまちを見直し、まちなかから元気を発信して集客する「集客型のコンパクトシティづくり」が時代においても必要となってきた。

まちの中で集客と分散をうまく連動させたまちづくりの取組みを考えていく必要がある。

○まちの後継者の問題

まちなか商店街の後継者の問題が深刻になっているのと同様、「まち」について考えたときに「まち」を引き継いでいく後継者がいないということが見えてくる。

ひと気が無くなっていくことで、人と人との出会いが無くなっていく。
そして更に元気・活気が無くなり、人と人との交流が無くなっていく。一時的に
住んだ場所だったとしても故郷が無くなっていくということを想像したことが
あっただろうか。

ただ、人数が減ることが「まちが消失」するだけではなく、人々が営んででき
たまちの歴史、自分のルーツ、アイデンティティーといった自分の拠り所なると
ころが消滅し、人々が暮らしのなかで育んできた伝統や文化が失われるというこ
とである。

人がいれば、増加すれば、交流人口が増えれば、人が出合い、関わり、賑わい
が始まり、まちが元気になる、引き継がれていくまちとなる。更に、逆に葛塚に
来て元気をもらって帰ってもらえば葛塚のまちがある意義も高まる。

「葛塚中心部まちづくり構想」では、葛塚のまちの成り立ちの歴史を踏まえ、
将来を見据えながら、まさにまた今「まち」について考える時期を迎えた、北区
役所跡地を利活用した新たなまちなか賑わい創出を目指して検討するものです。

参考文献

「広報とよさか1」 昭和21年10～昭和40年6月

「北区のお宝ものがたり」 北宝隊・新潟市北区役所

「葛塚本町の家並」他門の家並 小柳 啓作

「建築ガイド」 新潟市

「北区拠点商業活性化推進事業計画」 新潟市

2 北区役所庁舎および敷地の現況

北区役所庁舎および敷地についての概要は以下のとおり
(北区役所敷地図面参照)

所在地 新潟市北区葛塚3197番地
 用途地域 商業地域
 建ぺい率 80%
 容積率 400%
 建築物の用途 (建設可能な用途)
 住宅、小規模の兼用住宅、共同住宅
 幼稚園、小・中・高等学校
 保育所、診療所、神社、寺院、教会
 病院、大学
 2階以下かつ床面積が150㎡以下の店舗・飲食店
 2階以下かつ床面積が1500㎡以下の物販店・飲食店
 3階以上又は床面積が1500㎡を超える物販店・飲食店
 事務所
 ホテル、旅館 など

	本 館 (昭和37年3月建築)	新 館 (平成6年2月建築)
敷地面積	5642.18㎡	
建築面積	1,240.07㎡	492.92㎡
述べ床面積	2,716.40㎡	1,412.23㎡
耐震性能ランク	A (危険性が高い)	新耐震基準
参 考	昭和37年 3階建新築 昭和46年 2階建一部増築 昭和49年 2階事務室増築 昭和51年 3階一部増築	
駐車場 (敷地に含む)	63台収容	

北区役所周辺の交通

北区役所は JR 白新線 豊栄駅 から徒歩約 10 分の距離にあり、豊栄駅を交通のアクセスの起点として、北区役所周辺は区内の他地区に比べ公共交通ある。

北地区から直接北区役所周辺に乗り入れるバスが現在ないが、段階的に住民バスが社会実験として葛塚地区乗り入れを行っている。

高齢化が進み交通弱者の増加が見込まれることや地球環境への配慮も重要なことから、ここ北区においても地域公共交通の検討は今後も重要な課題となっている。

<鉄道>

JR 白新線 最寄駅：豊栄駅

<バス>

○新潟交通グループバス

[路線バス]

- ・ 豊栄線(新潟市中心部～県道 15 号～豊栄駅)

[高速バス]

- ・ 村上線(新潟市中心部～村上市)

※豊栄駅駅北方面高速道路沿いに葛塚停留所があり、パークアンドライド可。

[区バス]

- ・ 北区・区バス(太郎代浜・新富町～豊栄駅・北区役所・北区文化会館)
土・日・祝日および年末年始を除く、平日に運行

[住民バス]

- ・ おらってのバス(太夫浜・松浜～新崎駅～尾山団地～豊栄駅・北区役所～ビュー福島潟)

＊社会実験期間 平成 26 年 1 月 4 日から 3 月 30 日まで

[タクシー]

- ・ 北区役所周辺のタクシー事業者 2 社
- ・ デマンドタクシー(岡方・長浦地区～葛塚地区・早通地区・新崎地区)

3 北区役所周辺のまちなかの現状と課題

移りゆく商店街

JR 白新線豊栄駅北口からまっすぐ北区文化会館へ向かう下町十字路主要地方道新発田・豊栄線道路両側沿いに、商店街が建ち並ぶ。約250年前に葛塚市が開かれて以来、葛塚は地域経済の中心となった。しかし、当時川船や蒸気船が主要交通輸送手段としてされていた頃は上町、中町、下町、大口地区が経済の中心部であった。（地図参照）

その後、昭和27年にJR白新線が開通すると現在の駅前通商店街や白新町商店街が発展し、葛塚周辺部には新市街地が形成されていく。

1970年代後半以降は田んぼであった豊栄駅北側の開発が進み、現在では大型スーパーや総合病院、また新興住宅が形成されてきている。

駅前通商店街では平成15年に一部の区間を除きアーケードが設置され、豊栄駅前からの安全歩行空間を確保し、人々を招きいれている。

問題点

郊外型量販店、大型店の出店が相次ぎ消費が郊外に向かっている。

商店街経営者も高齢化がすすんでいる。

空き地、空き店舗も増加傾向にある。

葛塚市のあゆみ

1761年（宝暦11年）10月8日に葛塚市を開くことが幕府から正式に許可されて以来、葛塚市は江戸時代から196年間本町通りで開かれていました。しかしその後、自動車などの交通量の増加のため、1957年（昭和32年）4月20日から、市場は区役所前の常盤町通り（市場通り）に移っています。

毎月1・5・10・15・20・25日に開催しており野菜、果物、鮮魚、乾物から衣類まで幅広く出店されています。

問題点

出店者も高齢化が進み、毎年出店数が減ってきている。

核家族化が進み、少量多品種の購買傾向によって需要が衰退している。

北区役所周辺を取り巻く公共施設

北区役所を中心に半径300メートル以内には、北区文化会館をはじめ豊栄図書館、豊栄地区公民館、ふれあいセンター、北区社会福祉協議会、豊栄福祉交流センタークローバなど文化施設、教育施設、公民館施設、集会施設、福祉施設がとり巻いている。そのほか、金融機関、飲食店等が存在する。

問題点

公共施設と商店街との連携での事業や広報が希薄となっている。
中心部と公共施設や観光拠点（福島潟）との連携が不足している。

北区役所周辺を取り巻く諸現況

商店街での店主世帯の居住が郊外化しており、職住分離が進んでいる。

郊外型住宅団地での高齢者単身世帯や高齢夫婦のみ世帯が増えており、そこで育った子供世代が同居していないケースが増えつつある。それに伴って、高齢者の見守り、介護、看取りなど福祉分野の需要は高まってきている。

ニューファミリー世代は郊外大型店での購買やレジャー施設利用が中心となっており、旧来の街なか中心部での人通りが減ってきている。

街なかやJR 豊栄駅を中心にして大学生を狙ったアパート建設が増加しており、若年単身者住人が増えているため、そういう世代を狙った商売上のニーズが高まっており、アルバイト需要も含めた新しい商売が求められている。

学校施設や病院のなど、いずれも人通りや賑わいの中心となっていたものが、相次いで郊外に移転したために、郊外型大型店の出店とも重なり、北区役所周辺部での賑わいに大きく影響していると感じている商業者は多い。

※上記のような現況にありながら、区役所を移転新築することに、大きな危機感を持っている市街地居住者の声は見逃すことはできない。

4 北区まちなか賑わい創出の定義

北区まちなか賑わい創出を検討するうえで、目指すべきものを明確にするため条件を以下のとおりとした。

(1) 「北区役所跡地利活用」による「まちなか賑わい」の定義

北区役所の跡地を利活用することによって、人が集まり、行き交い、まちなかの賑わいを創出することを検討する。

区役所周辺部は、人々によって受け継がれてきた葛塚市や商店街に隣接しており、これを生かしたまちなかの賑わいを創出することも検討する。

また、この「葛塚中心部まちづくり構想」は、葛塚中心部の賑わい創出とともに北区全体を通した人のつながり、交流なども考慮する。

〔利活用の敷地面積について〕

基本的に、現行の北区役所の敷地面積内で考えることとする。

〔利活用の建物等について〕

平成6年に新耐震基準で建築された区役所新館については、継続して活用することとし、耐震性がB判定「地震の振動や衝撃に対して倒壊または崩壊する危険性がある」とされた本館については取り壊すものとして考えることとする。

これにより、区役所新館は残し、利活用することで考えることとする。

本館については、取り壊したあとの提案については敷地を整備するか、また新たに建物を建築する等は自由に検討することとする。

〔新築建物の大きさについて〕

建物の大きさについては、建ぺい率や容積率などの制限があるが、区役所周辺の住宅環境、まちなみ景観なども考慮して一般的に市民に受け入れられる大きさを検討する。

〔他の公共施設との関連について〕

北区役所を中心に半径2 km以内に豊栄図書館や北区文化会館などの市の公共施設が点在する。区役所周辺にとどまらず、公共施設と関連させたまちなか賑わいの創出も踏まえて検討する。

(2) 北区まちなか賑わい創出のターゲット・キーワード

引き継がれていくまちにするために、まちなか賑わいを創出する中心となる人々は誰かについて、次のターゲットが提案された。

ターゲット 1 「学 生」

～新潟医療福祉大学の学生のパワーをまちなかへ～

新潟医療福祉大学の学生は同大学ホームページによれば、現在約3,000人が在籍している（平成25年5月1日現在）。同大学による「北区学園都市構想」のもと今後5年間の間に学生数を5,000人にする構想が発表されている。

平成13年に開学以降、地域・産官学連携により地域と深く関わりながら大学の持つ専門性を地域に還元されていることは北区全体に知られているところである。また、平成28年度には農業・食料分野の4年制大学が新設される予定でもあり、より一層大学生の増加が見込まれるようになった。

葛塚中心部もアパートやマンションが建築されるようになり、学生の姿も近年多く見られるようになった。

豊栄駅から新潟医療福祉大学を結ぶ大学バスも平日、休日問わず朝から夜まで巡回運行されており、同大学北区において大きな存在感を持つ。

学ぶ意欲にあふれる同大学生を中心にまちなかの賑わいの創出を検討する。

ターゲット 2 「高齢者」

～退職後の高齢者のベテランパワーをまちなかへ～

ここ北区においても高齢者の人口は増加し、それとともに高齢者世帯や単身世帯も増え深刻な問題となっている。

退職後の人生が長くなり、第二の人生を謳歌しようと生涯学習や趣味、また学校や地域でのボランティアなどに活躍する高齢者の姿が多くみられるようになり地域を支える大きな存在である一方、同時に高齢者との関わりが薄くなってきていることは、積み重ねられ、受け継がれてきた先人の知識や文化に触れる機会が少ないということでもある。

戦後の高度経済成長とともに核家族化が進み、高齢者だけで暮らす形態が現代社会における生活形態の一つとなっている中で、今後も増え続ける高齢者の将来的な不安の解消、そして人生のベテランが持つ知識や技術の集約と地域への提供を中心にまちなかの賑わいの創出を検討する。

また、まちなかの賑わいを創出するためのキーワードについて、様々な意見提案が行われた。

「人口減少社会」

北区自治協議会では「北区10万人構想」を提示しているが、高度成長時代とは違い自然増はそれほど見込めない。ある人口統計調査資料では20%減少という予測も発表されている。ある意図を持って人口減少社会に対応しない限り予測を大きく上回る人口は確保できない。幸いにして大学生が増える見込みであることや、公共交通機関も含めた良好な住宅環境を有していることを最大限に生かしたコンパクトシティのための方策が望まれる。

また、将来を担う世代のためにも大きな投資で負担を残すよりは、コンパクトで効率の良い投資（例えば駐車場の相互利用など）によって負担を軽減するという考え方も必要であると思われる。

「世代間交流」

核家族化の極端な進行、郊外型住宅地への世代均一的な人口流入による弊害は数十年後に顕著に表れ始めている。地域毎に世代が分かれてしまい、世代間の交流が不足している現状から地域コミュニティの再構築という新たな手段での地域構成という課題を抱えてしまっている。

根本的には、地域に幅広い世代が住むことができれば幸いであるが、それまでの対応策として新たな世代間交流施設や組織や運動を促進して、世代間の知恵の引き継ぎを担わなければならない。

「街なか居住」

上記の世代間交流とも関連するが、一人暮らしの不安を解消するために高齢者専用住宅に移り住む高齢者が増えてきている。しかしながら、高齢者専用住宅などは郊外に設置されているケースも多く、元気高齢者が外出して用事を足す場所には少ない現状である。周辺住宅地での一戸建て住宅を借り上げて、住人は中心市街地の高齢者住宅に入居を促進させれば、周辺住宅地での一戸建て住宅が空き、ニューファミリーの子育て世代の住替えを促進することが出来て北区全体での人口確保という大きな命題についても仕組みを作ることが出来る。

業務系、商業系、医療系の施設が集中している街なかでの居住を促進することは、今後の人口減少社会においても必要な施設と考える。

「子育て支援」

ネグレクトや虐待などが社会問題として浮上してきた。親だけではなく地域社会の宝として子供を育てるという考え方が必要な時代となった。

当初は母子環境の改善のための支援が必要であり、生まれてからは子育てが終わった世代による支援が出来ると思われる。産科、小児科、保育などの公共施設だけでなく地域で子育ての知恵を引き継ぐ支援策が望まれる。

本来人間という生き物としての知恵を身に付けつつも、現代社会に適応できるための「生きる力」を育むためにも、新たな考え方で「子育て支援」を検討する必要がある。

「知的興味・関心」

北区は、小中学生における学力が市全体よりも低いと言われている。とは言え区内には4年制大学があり、大学生が多く在住するようになった。この機を活かして地域住民による「知的興味・関心」を高めるサテライトキャンパスを設置し、地域住民の生涯学習意欲を高め、新たな世代間交流が進む。

「地域包括ケア」

特別養護老人施設、グループホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者住宅などのハードを充実させなければならない事はもちろんではあるが、団塊の世代が後期高齢者に達する時期までには、在宅で看取るためのサービスなどへの支援策がどうしても必要と考えられる。老々介護や家族介護、自宅での看取りのための「地域包括ケア」や、認知症防止のための運動療法施設などの対策は待った無しではないかと思われる。

「コミュニティビジネス」

行政からの依頼による「ボランティア活動」が地域を支えるために大きな力になっていることは否めない。しかしながら、ボランティア自身が高齢化するため活動そのものが停滞したり継続できなくなってくることも考えられる。

現在担っておられる方々の負担を軽減するためにも、「ボランティア活動」の事業化を検討すべき時代になっているのではないかと。幸いNPO法人という格好の組織を活かすことができる時代になっている。ボランティアの事業化だけでなく、営利企業が手を出しにくい分野へのコミュニティビジネスという考え方で、リタイヤ世代にもっと社会貢献を促すことによって、地域の人的資源を有効に活用するという未来も検討すべきと思われる。

(3) 具体的プラン・イメージ

素案 1 「目指すは、コンパクトで行政と民間が一体化した
新しい中心市街地の在り方に挑戦する！」

素案 1－1 イメージ図

素案 1－2 プラン

素案 2 「子育てを合言葉に、世代間交流に重点を置いた
地域の交流力を高めて賑わいを取り戻そう！」

素案 2－1 イメージ図

素案 2－2 プラン

素案 3 「街なか居住と街なか拠点ビジネスセンターで、
葛塚の中心部にパワーを集めよう！」

素案 3－1 イメージ図

素案 3－2 プラン

●北区まちなか賑わい創出事業のまとめ

1. 各素案併記という表現方法について

市民プロジェクトによる素案の組み立て方や公開シンポジウムでのアンケート結果を勘案し、まちづくり構想検討委員会における議論の結果、にぎわい創出のターゲットやキーワードにおいてこれまでの議論のポイントを明記してあることを論拠として、素案1～素案3を併記し、単一のプランに絞らずにまとめとすることにした。今後の行政計画を組み立てるための基礎提案として活用されることが望まれる。

2. 最終報告書の取り扱いについて

平成25年度北区自治協議会の提案事業として葛塚地区の将来像や跡地利用の可能性を議論し本報告書として取りまとめることができたと自負している。

自治協議会が要請している「移転新築」という区役所整備の方針に反すること無く、真摯に具体案を示したと思っている。しかしながら平成23年度に要請した自治協議会の議論の推移等については葛塚地区の住民への周知不足もあり、区役所移転についての議論が多かったのも確かである。本報告書の内容も含め、自治協議会の協議内容についての広報活動について一考を求めたい。

今後、この報告書の内容が北区自治協議会において充分議論され、平成26年4月から始まる新しい「区ビジョン」の策定に組み入れられ、新潟市北区役所整備計画の具体化や推進に大きく寄与してもらいたいと願っている。

また、平成23年度の要請書の付帯意見を補う意味でも、地元での議論の内容や報告書に示されている将来像を実現したい具体策が示されているという意味でも、自治協議会という協議機関及び新潟市役所という行政機関、市議会という意思決定機関に対して直接的な提言として取り扱っていただきたいと願うものです。

平成25年度 北区自治協議会提案事業

北区まちなか賑わい創出事業

「葛塚中心部まちづくり構想」

資料編

まちづくり構想検討委員会

資料編 目次

資料	1	市民P J 中間報告①—1	1
資料	2	市民P J 中間報告①—2	2
資料	3	市民P J 中間報告②	3
資料	4	公開シンポジウム 議事録	4～8
資料	5	公開シンポジウム アンケートまとめ	9～11
資料	6	まちづくり構想検討委員会 議事録 第1回～第4回	12～30
資料	7	会議概要 会議実施概要 会議写真	31 32～33
資料	8	委員名簿及び市民プロジェクト参加者、事務局	34

資料 7 会議概要

●会議実施概要

まちづくり構想検討委員会

会場： 北区役所3F 大会議室

第1回	平成25年	6月	6日(木)	10:00～11:55	11名
第2回	平成25年	9月	12日(木)	13:30～15:35	11名
第3回	平成25年	12月	12日(木)	13:30～15:45	11名
第2回	平成26年	3月	6日(木)	14:30～16:30	10名

市民プロジェクト

会場： 長岡屋2F 大ホール

第1回	平成25年	6月	20日(木)	19:10～21:05	36名
第2回	平成25年	7月	18日(木)	19:10～21:05	26名
第3回	平成25年	8月	22日(木)	19:00～21:00	22名
第4回	平成25年	9月	19日(木)	19:00～21:00	22名
第5回	平成25年	10月	24日(木)	19:00～21:00	18名
第6回	平成25年	11月	21日(木)	19:05～21:15	20名
第7回	平成25年	12月	19日(木)	19:05～21:00	15名
第8回	平成26年	1月	16日(木)	19:10～21:10	18名
臨時	平成26年	2月	20日(木)	19:00～21:00	10名

公開シンポジウム

会場： 長岡屋2F 大ホール

平成26年	2月	8日(土)	13:30～15:30	57名
-------	----	-------	-------------	-----

●会議写真

まちづくり構想検討委員会



市民プロジェクト



公開シンポジウム



資料 8 委員名簿及び市民プロジェクト参加者、事務局

まちづくり構想検討委員会

委員長 中出 文平

副委員長 外山 勝

委員分類	氏 名	所 属 等
学識経験者	中出 文平	長岡技術科学大学 副学長・教授
	岡田 史	新潟医療福祉大学 社会福祉学部教授
地元自治会	箱岩 一夫	上大口自治会 副自治会長
	米田 正作	相生町自治会 自治会長
	熊田 克己	下町自治会 自治会長
	眞田 亨	白新町自治会 4丁目自治会長
商工関係者	外山 勝	豊栄商工会 会長
	長井 桂一郎	豊栄駅前通商店街振興組合 代表理事
	山田 一夫	豊栄市場商組合 組合長
自治協議会	高谷 行雄	葛塚中央コミュニティ協議会
	谷澤 幸泰	葛塚東コミュニティ協議会

市民プロジェクト

NO	氏 名	所 属	NO	氏 名	所 属
1	小日向克司	豊栄商工会	21	長岡 敏郎	駅前通商店街
2	中川 聡	白新町商工振興会	22	青木 和子	商工会婦人部
3	中村 克頼	上大口自治会	23	渡部 圭子	商工会婦人部
4	大脇 隆	上大口自治会	24	服部 美和	消費者協会
5	やまだみつる	商工会青年部OB	25	山岸 洋子	消費者協会
6	吉田 大介	本町商店街	26	船山 敏子	消費者協会
7	佐藤 隆之	本町商店街	27	高野 茂	相生町自治会
8	井嶋 孝	本町商店街	28	村山 貴子	学校ボランティア
9	内山 正博	本町商店街	29	横山 菊枝	学校ボランティア
10	佐藤 綾彦	本町商店街	30	渡辺 純子	ネットワーク・ライツ
11	田中謙太郎	本町商店街	31	松井 良枝	ネットワーク・ライツ
12	上杉 茂弘	中町自治会	32	鈴木 好美	ネットワーク・ライツ
13	長谷川 実	日本語教室	33	牧野 敦子	民生委員
14	中村 直	社会福祉法人	34	五十嵐智恵子	民生委員
15	小池 敬介	上町自治会	35	相沢 ミヨ子	民生委員
16	曾我 謙二	他門自治会	36	五十嵐信明	商工会青年部
17	富澤 俊幸	新潟北JC	37	豊崎 善弘	駅前通商店街
18	鈴木 秀明	新潟北JC	38	入山 朋子	産業振興課
19	上野 大輔	新潟北JC	39	尾崎 利枝子	地域課
20	箱岩 松男	身障者協会	40		

事務局

分 類	氏 名	所 属 等
担当窓口	栗林 裕之	新潟市北区役所 地域課 課長補佐
	尾崎 利枝子	新潟市北区役所 地域課 企画係
組合事務局	横山 正隆	豊栄駅前通商店街振興組合 理事
	豊崎 善弘	豊栄駅前通商店街振興組合 理事
学生アルバイト	佐藤 大輔	新潟医療福祉大学 4年
	伊藤 麻里	新潟医療福祉大学 4年
	岡田 真理	新潟医療福祉大学 3年
	袖山 咲香	新潟医療福祉大学 3年
	堀 明香	新潟医療福祉大学 3年
	佐野 由希子	新潟医療福祉大学 2年
	渡部 陽呂代	新潟医療福祉大学 2年
	本間 志歩	新潟医療福祉大学 2年
	長谷川 圭輔	新潟医療福祉大学 1年

事務局HPアドレス

<http://www.toyosaka-tmo.com/machinaka/>

